

被災・原発事故12年。「福島原発事故は終わっていない」 高松集会(JR高松駅前広場)に民医連も参加。



右は大西県連会長。この後、四国電力前までアピールウォークを行いました。

香川原水協、原水禁香川、原発なくす香川の会、脱原発アクション in かがわの4団体で構成する実行委員会の主催で3月10日(金)17時30分から開催され、香川民医連から大西和子会長、奥谷事務局長、共同組織の皆さんが参加しました。

岸田内閣は、2月10日原発の「最大限活用」を明記した方針を閣議決定し、東日本大震災後、あいまいながら「原子力発電への依存度を可能な限り低減する」としたこれまでの原発政策の大転換。現在「原則40年、最長60年」としている運転期間の上限を事実上撤廃。安全対策などのために停止していた期間を運転期間から除外し、60年を超えた運転を可能にしました。原子炉圧力容器の壁は中性子などに照射される期間が長いほどもろくなります。運転停止期間中でも設備の劣化は進みます。また、地震や津波が多発する日本で原発を推進することは、国民のいのちと安全、国土を危険にさらし続けます。**ぜひ、下記の記事もご一読下さい。**

民医連医療 3月号 看介研 記念講演
「私が原発を止めた理由」
元福井地方裁判所裁判長 樋口英明

配布済の下の署名にご協力をお願いします。

原発推進を許さず

原発ゼロ・再生可能エネルギーへの転換を!

福島を
忘れるな!

福島を忘れるな!

岸田政権の
原発推進政策

- 原発によって、安定的で豊富なエネルギーを供給する
- 原発を最大限活用して、高効率火力の削減など気候変動問題に対応する
- 原則40年・最長60年の運転期間の規制を撤廃し、60年超の長期運転を可能にする
- 原発の使用済み核燃料からプルトニウムなどを取り出し、燃料として再利用する「核燃料サイクル」実現へ
- 次世代革新炉の開発・建設に取り組み、廃炉決定している炉について次世代革新炉への建て替えを具体化する。

福島は一基あたりの出力は大きいですが、柔軟に止めたり動かししたりすることはできず、出力調整は困難。またトラブルが多く、計画外に停止すれば広範囲に大きな影響をもたらす不安定な電源である。

新増設には少なくとも10~20年を要するため、喫緊の気候危機の対策にはならない。
福島のような事故が起これば、汚染された草木を刈り取り、木々を伐採し、土壌を削り取ることで環境破壊につながる。

原子炉は中性子にさらされることで、配管やケーブルなどの設備・部品が劣化・変化する。原発を構成する設備・部品は約1千万以上の上とされ、点検時の長滞などのリスクが積み重なり、長期間の運転は、老朽化によるリスクを度外視するもので、再び過酷事故を起こしかねない。

六ヶ所再処理工場は完成の目途が立たず、高速増殖炉「もんじゅ」は廃炉が決まっており、核燃料サイクルはすでに破綻している。再処理の過程で発生する高レベル放射性廃棄物(核のごみ)の最終処分場は決まっていない。

「次世代」「革新」というネーミングから、新しい技術や安全性が盛り込まれたような印象を受けるが、実際は従来の原発の延長線上でしかない。必要性と実現可能性に疑問の残る次世代革新炉の研究開発に税金をはじめとした公的資金が投入される。

裏面の署名にご協力ください

私たちは ● 原発ゼロ、そして再生可能エネルギーへの転換で、持続可能な社会の実現へ
● さらなる原発被害を生むアルプス処理海洋放出中止 を求めます

原発をなくす全国連絡会